

沖縄へ

=沖縄を戦場にしない県民大会に参加して=

村上光子

10 か月ぶりの沖縄である。安和に掲げられた「日本政府は沖縄を喰いものにするな」の横断幕。沖縄は戦前、戦中そして戦後は米日両政府に喰いものにされてきた。米軍に土地も空も海も奪われ、人権も生存権も脅かされる日々。それに増して日本政府は「米国の言いなりでいろ」と自治を与えず、弾圧を重ね、民意を分断してきた。その上、再び戦場にしようなんてありえない！国内に戦争を呼び込み、国民を犠牲に差し出す国が他にあるか！冷酷非道すぎる日本政府である。その沖縄で3泊4日を過ごした。

●米軍ホワイトビーチ

横須賀、佐世保、ホワイトビーチと日本で三か所ある原子力潜水艦の寄港地だ。平屋敷公園（タキノー）という高台から栈橋の三分の一程度が見える。850mと450mの2本が並んでいる。その日は軍艦一隻の停泊で動きはなかった。9.11以降、潜水艦の帰港時刻通知がなくなり、テロ対策を口実に放射能漏れの危険情報の非公開が続いているようだ。



●陸自勝連分屯地

沖縄本島の地対空ミサイル配備地である。1912年、保安林指定。大戦後、米軍高射特殊部隊施設。1975年 新森林法で再度保安林指定。自衛隊は、森林法を無視し、更にミサイル車両広場など基地機能強化のために土地形質変更を続けている。ゲート入り口は狭いが、奥へ奥へと基地は続き、現在工事を13企業に発注し、2023年度34億円の予算で工事ラッシュのようだ。大きな退庁舎が建設され、燃料施設、車両整備場などが新設される。そ



の奥には射撃場があり、地対空ミサイル訓練場や火薬庫がある。分屯地から最も近い

民家へは110m、火薬庫からは173mという近さだ。米軍のレーダー塔が隣接し、23年8月までの台風で大きく破損したという。

●嘉手納飛行場

道の駅に新しい展望台が造られていた。演習中



で軍用機数機が見えたが動きはなかった。遠くは霞んで見渡せないほど広大だ。国道を走ると側面にフェンスが

延々と続く。きれいに芝が整えられ、広すぎる土地に基地庁舎や住宅が点々と続く。普天間を過ぎるとすぐに嘉手納のフェンスだ。フェンスひとつ隔てると天と地の落差。米軍は自由に基地を出て密集した市街地をも軍用車で堂々と走り回る。

●辺野古

以前に比べるとダンプは少ないが、国道沿いの工事は激しくなっているようで、道路脇の樹木の伐採で山肌が剥き出しの箇所が増えていた。基地へ通じる道路や美謝川の切替工事や弾薬庫を5棟も新設する工事だ。二本の活断層に囲まれての建設は危険すぎるだろう。

米軍幹部が「滑走路の沈む場所での基地建設は難しい」「大浦湾の軟弱地盤は軍事に影響を与える可能性がある



」「軍事的には辺野古が完成した後も普天間施設の維持が『イエス』だ」と言っているのに、日本政府は相変わらず「普天間移設に辺野古が唯一」とオウムのように繰り返す。そして、ホープスポットの海へ赤土をどこどことぶち落とし続ける。軟弱地盤を巡っての県の申し立てを司法までもが踏みつける。その上、サンゴの移植さえしないで埋立を強行するようだ。

辺野古 3426 回目の座り込みと安和の牛歩に参加。連日、何か所も、暑い気候の中での抗議行動に本当に頭がさがる。駆けつけることができない



で申し訳ない気持ちで名古屋の街宣に立ってはいるのだが、やっと参加できた。

沖縄の闘いは歌で始まり「頑張ろう」で締める。今回もさまざまな歌をたっぷり聞かせてもらった。1日の

警備費が 2100 万円だそうだが、警備の機動隊、ガードマン、防衛局の職員、そしてダンプの運転士にも歌声が染みわたっているだろう。もしもの有事のミサイルは、彼らを避けて落ちてこないのだから。

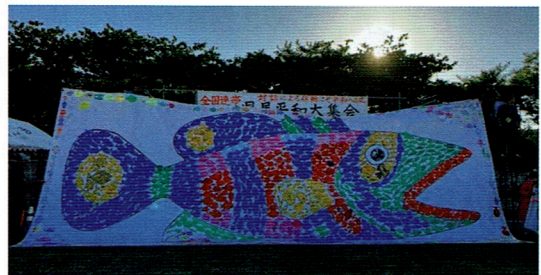
●11.23 県民平和大会

若者と沖縄の運動を担ってきたつわ者との「沖縄を二度と戦場にしない」想いをひとつに1年かけて作り上げてきた集会だ。キッチンカーのフード出店やキッズコーナーにプラカード作成コーナーなどのブースを配置し、若い人、家族連れ、島々から、全国から1万人以上が集まった。コンサートに始まり、メイン集会。「対話による信頼こそが平和への道」「争うより愛したい」がメインテーマだ。様々なひとからあいさつや報告、そのひとつひとつの言葉が心に響いた。島々には自衛隊がズカズカと暮らしに入り込み、反対が言にくく、厳しさが増している状況の訴え。

デニー知事は、「不条理」という言葉を何回も訴えていた。悲しいほど不条理すぎる沖縄だが、知事も島民も諦めない。「傍観的好戦論から目を覚ませ」は本土に突き付けられた言葉だろう。若者の言葉「沖縄は幾多の困難にも立ち向かってきた。強く、やさしく、美しい沖縄に生まれた誇りがある。沖縄が世界の希望になるよう、この沖縄から世界に平和の輪を広げていこう」と。「戦争は年寄りをはじめ若者が死ぬ」とも。でも、2019年だったか県民投票を求めて若者がハンストまでして闘っていてもいる。いざとなったら力を発揮するのが沖縄の若者だ。沖縄には希望がある。「若い人たちが今こそ立ち上がって」と全国への呼びかけもあ



った。若者を殺させてなるものか。ひとりひとりの想いをうろこに託して作った巨大なスイミーバイ。「戦争をもたらす政府に対して、私たちはスイミーのように大きな塊になって戦争をとめていこう」と参加者一体となつての「頑張ろう」で締めた。「今後の闘いへの希望になった」という沖縄の人たち。本土に帰る私は何をすべきか。



●全国連帯

国会前 2000 人、この名古屋でも全国各地でも連帯の同時開催の集会が行われた。夜は、200 人以上の参加で全国交流集会があり、韓国・台湾・アメリカからのあいさつと 14 の地域からの報告があった。



●帰名

沖縄でたくさんの奮起をもらい帰宅後開いた地元の新聞。Jアラートが鳴り、モノレールが止まった記事が二面に載っていたが、平和大集会の記事が見つからない。こんなことでいいのか！

「平和も民主主義もメディアから腐る」という言葉もあった。メディア以前に、自民公明政権が腐りきっている。奴らに届くか、沖縄の叫びが想いが苦しみが。ガザの声さえ届かない西側の権力者たちがいる。不条理と差別と暴力に満ち満ちている世界だが「あきらめない」で戦いのない世界に、道理が通る世界に、皆が幸せに生きることができると世界に向かって一步を進めていくしかないだろう。

●追

「軍拡を進める政府に私たちの危機感を明確に示そう！」と黄色いアイテムを身に着ける運動が始まっている。沖縄に行くたびに辺野古バスにお世話になっているが、国の運輸政策でバスのチャーター料金が倍になり、運行回数を減らさざるを得なくなっている。辺野古基金も枯渇しているそうだけひカンパを！